



暑中お見舞い申し上げます

熱中症にご注意を！



今年も猛暑が続いています。むしろ酷暑と申しましょうか…

さて、今月の話題は今や夏の時期に必須となっている冷感素材のお話しです。

～ 冷感素材の原理 ～



よく聞く「冷感素材」
どういう仕組みなの？



冷感素材は、肌から素材へ熱や汗の水分が移動する際に「熱を奪う」ことで、ひんやりと感じさせる素材です。

冷感素材には3つの基本原理があります

<接触冷感>

肌が触れた瞬間に、体温を素早く生地へ逃がします。つまり、皮膚の熱が生地側に瞬間的に移動することで、冷たく感じます。同じ場所に触れ続けると温度差が小さくなり、冷感が弱まります。

<気化冷却・クーリング>

汗や水分が生地に吸収され、蒸発する際に周囲の熱を奪う“打ち水”と同じ仕組みで、蒸発が盛んなほど涼しく感じます。主にスポーツウエアで利用されることが多いです。

<吸熱・蓄冷>

相変化素材(PCM)が固体から液体に変わる時に熱を吸収、放出する原理で、温度が上がると周囲の熱を奪い、一定期間冷感を維持できます。

キシリトール成分を使うこともあり、ジェルバッドなどに応用されています。

～ 接触冷感素材、あれこれ ～

前述の原理を利用したものの中でも、接触冷感がよく使われていて、身近に利用されています。

ここでは、接触冷感素材のことを少し掘り下げます。

人が物に触れた時、それぞれが同じ温度なのに、鉄の板は「冷たい」、ウールの服は「暖かい」と感じます。このような**皮膚感覚**を「**接触冷（温）感**」と呼びます。接触冷感の機能がある繊維製品には、主に麻・絹・レーヨン・ポリエステルなどが使用されていることが多いです。



<天然繊維：麻、絹など>

天然繊維とは、植物や動物など自然由来の原料から得られる繊維のことで、**吸湿性**や**通気性に優れており、環境にやさしい素材**としても注目されています。

接触冷感素材としては麻や絹などが代表的です。

なかでも麻は、熱伝導性に優れた素材で、汗を素早く吸収し、乾きやすいという特徴があります。

主成分は人間の皮膚と同じタンパク質で構成されています。そのため、**肌なじみが良く、柔らかさや滑らかさを実感**できます。

<再生、合成繊維：レーヨン、ポリエステルなど>

再生繊維は天然原料を加工して作られたもので、合成繊維は石油由来の人工素材。機能性やコスト面に優れており、接触冷感素材としてはレーヨンやポリエステルなどが代表的です。

レーヨンは再生繊維で、もともと**絹の代用品として開発された素材**であり、滑らかな手触りと上品な光沢を楽しむことができます。

ただし、水や熱に弱いため、洗濯やアイロンがけには注意が必要です。

ポリエステルは合成繊維で、シワが付きにくく、防虫剤によって変色しにくい等の特徴を持っています。

一方、**匂いや汚れを吸着しやすい性質**もあります。

<特殊加工素材：キシリトール加工>

特殊加工素材とは、生地に機能性を加えるための加工を施したもので、**接触冷感や吸湿性などを高める**ことができます。

ガムでおなじみのキシリトールもその一つで、加工により汗や水蒸気を吸収して生地を温度を下げ、ひんやりとした感覚を得られます。

冷

「お住まいの
修繕チェックしませんか？」

ゲリラ豪雨時期の前に
備えておくことが重要です！

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、
声かけ頂ければ、何でもお役に立てます！

～土地・建物のよろず屋～



マルヒロ不動産(株)

名古屋市中村区横前町109番地

TEL: 052-413-4628



<https://maruhiro2103.co.jp>